HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	編集後記
Citation	科学技術コミュニケーション, 10, 125-125
Issue Date	2011-12
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/47793
Type	other
File Information	JJSC10_011.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

編集後記

去りゆく2011年は，どのような年として歴史に刻まれるのだろうか，この先いかなる変化がわれわれを待っているのだろうか．こんなことを，例年になく頻繁に思う年の暮れとなりました．震災で被害に遭われた方々の状況に思いを致しつつ，皆様に一日も早く平穏な日々の戻ることを願ってやみません．

『科学技術コミュニケーション』第10号をお届けいたします．今号には，第9号からの継続審査のものも含めて12本の投稿があり，厳正な査読の結果，論文3本，報告6本が掲載となりました．先号よりもいくぶん投稿数は減りましたが，今回もユニークな実践や研究に基づいた貴重な論考をご投稿いただきました．

次号は2012年6月発行の予定で，2012年3月15日〆切で原稿を募集します．今号で掲載に至らなかった方も含めて，引き続き積極的なご投稿をいただければ幸いです．

現編集委員会は今号の発行をもって任期を終え，新しい編集委員会へ業務を引き継ぎます．2010年春に編集責任者をお引き受けした時点で，本誌は創刊から3年を経ており，すでに編集業務は基本的に軌道に乗っていました．したがってこの2年間，私たちにとっての課題は，それまでの資産を生かし，いかにして本誌を名実ともにこの分野の実践，研究の交流の場として成長させていくか，ということでした．

この観点からもっとも力を注いだのは，（ジャーナルの編集としては当然のことですが）各原稿に内在した実質的な査読を，ということです．掲載に至らない場合も含め，著者と審査者，編集委員会の間の闊達な議論こそが，この分野の研究や実践を豊かにするのに寄与する道と考えたからです．著者の皆様は，審査者からのかなり踏み込んだコメントを真摯に受け止め，改稿を進めてくださいました．査読と改稿の過程で，書面を通じてあまたの実り多い討論ができたこと，そしてその成果の多くが誌面に結実していることは，編集をお預かりする者として望外の喜びです．

本丸の査読に注力するかたわら，外回り工事的な改革としては，今年春にFacebookページを開設したり，8月には北海道大学学術成果コレクション（HUSCAP）上での記事アクセス情報を著者にフィードバックするサービスを始めたりするなど，ウェブを活用した交流の機能を強化する試みにも着手しました．また8月5日には，これも初めての試みとして，本誌への投稿を検討されている方をおもな対象とした「ジャーナルセミナー」を都内で開催しました．北海道大学東京オフィスの会議室が満員となる約20人の方にご参加いただき，本誌への期待の大きさを改めて認識する機会ともなりました．

この場を借りて，本誌を支えてくださっている著者や査読者，アドバイザー，そして読者の皆様に，厚くお礼申し上げます．また，(株)プリプレス・センター，北海道大学HUSCAPの皆様にも，雑誌の制作，発行で大変お世話になっております．誠にありがとうございます．

来たる年が皆様にとってよい年になりますように願っております．